



1



2



3



4



5



6



7

クローバーホスピタルの新たな視点

- 全職種が主役
- 高齢者救急の肝は地域連携と院内連携
- 病床機能の転換には明確なビジョンを示す

1 毎朝の在宅チームのカンファレンスでは積極的に意見を交わしている。
2 介護福祉士が医学生に教えることもある
3 地域連携室の会議に医師（中央の白衣を着た女性）も参加している
4 常勤の歯科衛生士を雇用し、口腔ケアの質を高めている
5 各病棟に管理栄養士を配置し、栄養面からのフォローも充実させている
6 言語聴覚士による嚥下機能評価も重要
7 篠原裕希理事長



医療法人篠原湘南クリニック
クローバーホスピタル
住所 神奈川県藤沢市鶴沼石上3-3-6
TEL 0466-22-7111
診療科 11科
病床数 170床
職員数 358人

か。全職種が主役です」と述べる。

一方、若手医師・医学生と接する機会が少ないため、いい意味で大きな刺激になっていることも事実で、日々の大きな戦力にもなっています。写真からもその雰囲気伝わってくるのではないのでしょうか。全職種が主役です」と述べる。

原理事長は「組織の維持は、①明確なビジョン、②風通しのよさ、③スタッフへの感謝——の3つに尽きます。私たちは、大学病院を含めて2つの高次機能病院から年間14人の初期臨床研修医、さらに大学からベッドサイドトレーニングの在宅実習を受け入れています。指導にあたる医師、現場の関係スタッフの協力で心から感謝しています。

「高次機能病院から年間14人の初期臨床研修医、さらに大学からベッドサイドトレーニングの在宅実習を受け入れています。指導にあたる医師、現場の関係スタッフの協力で心から感謝しています。

「高次機能病院から年間14人の初期臨床研修医、さらに大学からベッドサイドトレーニングの在宅実習を受け入れています。指導にあたる医師、現場の関係スタッフの協力で心から感謝しています。

「高次機能病院から年間14人の初期臨床研修医、さらに大学からベッドサイドトレーニングの在宅実習を受け入れています。指導にあたる医師、現場の関係スタッフの協力で心から感謝しています。

「高次機能病院から年間14人の初期臨床研修医、さらに大学からベッドサイドトレーニングの在宅実習を受け入れています。指導にあたる医師、現場の関係スタッフの協力で心から感謝しています。

「高次機能病院から年間14人の初期臨床研修医、さらに大学からベッドサイドトレーニングの在宅実習を受け入れています。指導にあたる医師、現場の関係スタッフの協力で心から感謝しています。

写真＝原恵美子

(C) 2024 日本医療企画

高齢者救急の充実のために
院内の連携強化に取り組む

vol.63

病院新時代

医療法人篠原湘南クリニック

クローバーホスピタル
(神奈川県藤沢市)

高齢者医療のニーズが増大していく地域で
在宅医療や介護施設との結びつきを強め
高齢者救急の充実を高めている

在宅医療に出発する面々には笑顔がある

神

奈川県藤沢市で回復期・慢性期医療の提供をしているクローバー

ホスピタルは、湘南東部医療圏の高齢者医療の需要が今後も増大する予測を受けて、高齢者救急の充実に取り組んでいる。篠原裕希理事長は「働き方改革による救急専門医不足が三次救急病院を直撃、臓器別専門医が担当することが多い二次救急輪番体制も限界を迎えています。その対策として中等症救急患者が多い高齢者の救急受け入れ、高齢者救急を当院が担います」と語る。

ポイントとは地域連携、院内連携だという。「前者は他医療機関との今以上の密な連携、後者は入院退院支援部門とも言い換えることができ、地域連携室を中心とした在宅医療チーム、受け皿としての地域包括ケア病棟との連携です。各論的には、高次機能病院からの入院受け入れのポストアキュート、介護施設や在宅医療、外来からの緊急受け入れであるサブアキュートです。まず取り組むべきことは、病院のリノベーションにより急患受け入れ時の動線確保とカンファレンススペースの拡大です。次に全スタッフへの丁寧な説明です。医療機関